

ツムラサキ (ツムラサキ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
タネまき				収 穫							

品 種

紫莖種と緑莖種とがありますが、特に品種はありません。一般には、紫莖種が多く作られています。

栽培ポイント

高温、多湿でよく生育します。寒さには弱いので、霜がおりると枯れてしまいます。高温性の野菜なので、あまり早くタネをまいても、地温や気温が低いうちは発芽も生育もしません。気温が十分に上がる5月から6月ころにまくのがよいのですが、ポリ鉢にまいて、苗を畑に植えつけたほうが確実です。

タネは一晩水につけてからまくと、発芽がよくなります。水に真っ赤な色が出ますが無害です。

土質は特に選びませんが、畑には、あらかじめ苦土石灰を一面にまいて、よく耕しておきます。

生育が旺盛で、わき芽もたくさん伸びてきますし、生育期間も長いので、元肥をきちんと施し、追肥もときどき施してやります。植えつけ後、生育し始めると、すぐにつるが伸び出しますから、支柱を立ててからませます。

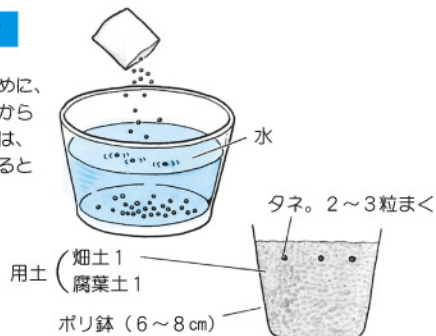
収穫は、気温が上がるとどんどんつるが伸びますから、つる先のやわらかいところを、随時、つみとります。

榮 養

ビタミン類や、カルシウム、カリウムなどが多く含まれています。

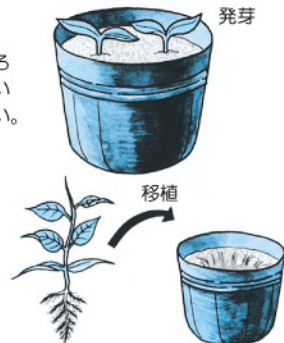
1 タネまき

発芽を確実にするために、タネは一晩水につけてからまく。タネをまいた鉢は、暖かいところで管理すると早く発芽する。



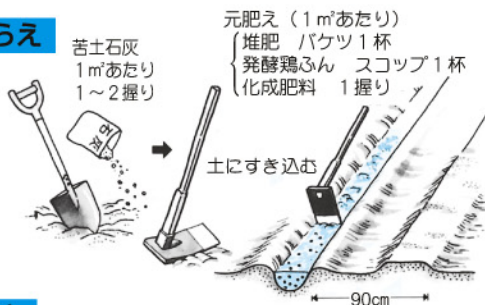
2 間 引 き

本葉が1～2枚のころ
1本に間引く。ていねい
に抜いて移植してもよい。



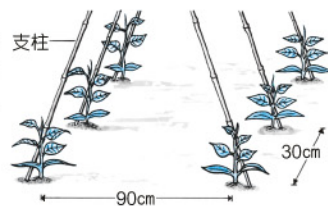
3 畑の土ごしらえ

苦土石灰をまいて
耕しておいた畑に、
植えつけ1週間前に
元肥えを施して畝を
作る。



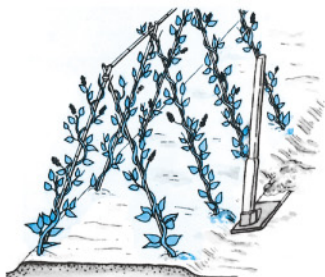
4 植えつけ・支柱立て

本葉が3~4枚になったら、ポリ鉢からていねいに抜いて、根土を落とさないようにして植えつける。つるが伸びる前に、支柱を立てておく。



5 追肥・土寄せ

気温が上がってくると、どんどんつるが伸びてくる。収穫したあとに化成肥料を1㎡あたり1握りぐらい追肥し、土寄せをする。



6 收穫

必要なときに、
やわらかいつる
先15cmくらいの
ところをつみと
る。わき芽も収
穫できる。



主な病害虫 ◆害虫 ヨトウムシ